

R5年農事メモ(第5号)

令和5年6月30日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

白山石川グレードアップ米づくり運動実施中!

今回のポイント!

チェック
□中干し後から出穂までは、約1ヶ月間の飽水管理

チェック
□出穂から刈取り直前までは、

① 乾かさない ② ずっと溜めない ③ すぐ落とさない

チェック
□水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施

水稻の生育状況

(6月23日時点)

ゆめみづほ、コシヒカリの草丈は平年よりやや長く、茎数は平年並みです。

ゆめみづほの出穂期は、7月16~18日の見込みです。

コシヒカリの出穂期は、7月29~31日の見込みです。

ただし、今後の気温により出穂期が早まる可能性があります。

ゆめみづほは、幼穂形成期に入っており、中干しを終了し、間断通水に切り替えましょう。

5月上旬に植えたコシヒカリについては、中干しを十分にできていないほ場があるため、

7月8日頃を目途に中干しを終了し、間断通水に切り替えましょう。

【出穂期の見込み(5月連休までの田植え、6月23日調査)】

品 種 名	主稈幼穂形成期 (出穂25日前)	減数分裂期 (出穂15~5日前)	出 穂 期
ゆめみづほ	6月22日頃	7月2~12日頃	7月17日前後
コシヒカリ	7月5日頃	7月15~25日頃	7月30日前後

追肥や防除実施の基準になります

病害虫防除は適期を逃さず実施!

病害虫発生予報第3号(6/15発表) 病害虫防除室

紋枯病:多 前年発生ほ場や茎数の多いほ場で多発する可能性があります。

斑点米カメムシ類:やや多 7月上旬仕上げ除草と適期防除の徹底で斑点米を減らしましょう。

6・7・8月は農薬危害防止運動期間です。農薬を安全で適正に使用し、随時保管管理を徹底することは、農業生産の安定だけでなく、生産者の健康や生活環境の保全の観点からも重要です。

当面の栽培管理

1 病害虫防除(基幹防除)

(1) ゆめみづほ(出穂7/17前後)



体系	散布時期	対象病害虫	薬 剤 名	使用量 10a 当たり	散布時期の 目安	本剤の 使用回数	注 意 事 項
粒剤 防除 ※	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病、ウンカ類 他	イモチエース スタークル粒剤	3 kg	7月8日 ~12日	1回	使用時期: 収穫35日前まで
			ワイドパンチ豆つぶ	250 g		1回	使用時期: 収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	3 kg	7月22 ~26日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで
			スタークル豆つぶ	250 g			
液剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	①ビームエイト スタークルゾル +	①60~150L (1000倍)	7月22 ~26日	①3回以内 ②5回以内	使用時期: ①収穫7日前まで ②収穫14日前まで
			②バリダシン液剤5	②60~150L (1000倍)			
	2回目	いもち病、カメムシ類 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームエイト スタークルゾル	60~150L (1000倍)	7月29日 ~8月2日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで

(2) コシヒカリ(出穂7/30前後)

体系	散布時期	対象病害虫	薬 剤 名	使用量 10a 当たり	散布時期の 目安	本剤の 使用回数	注 意 事 項
粒剤 防除 ※	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病、ウンカ類 他	イモチエース スタークル粒剤	3 kg	7月21~ 25日	1回	使用時期: 収穫35日前まで
			ワイドパンチ豆つぶ	250 g		1回	使用時期: 収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	3 kg	8月4~ 9日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで
			スタークル豆つぶ	250 g			
液剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	①ビームエイト スタークルゾル +	①60~150L (1000倍)	7月28日 ~8月1日	①3回以内 ②5回以内	使用時期: ①収穫7日前まで ②収穫14日前まで
			②バリダシン液剤5	②60~150L (1000倍)			
	2回目	いもち病、カメムシ類 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームエイト スタークルゾル	60~150L (1000倍)	8月4~ 9日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで

※ 粒剤は、1回目の散布では水深3~5cm程度で散布7日間は湛水状態を保つ。

2回目の散布では水深3cm程度で散布4~5日間は湛水状態を保つ

2 病害虫防除(随時防除)

常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう。

○稲こうじ病 ※穂ばらみから出穂にかけて雨がが多く、低温・日照不足で発生が多くなる。

薬 剤 名	使用量 10a 当たり	使用時期	本剤の 使用回数	注 意 事 項
モンガリット粒剤	3~4 kg	出穂2~ 3週間前	2回以内	水深3cm程度で散布4~5日間は湛水を保つ。
Zボルドー粉剤DL	3~4 kg	出穂10日前、 まで	-	穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布する。

※紋枯病について

常発地やすでに発生しているほ場は、

出穂10日前までにモンガリット粒剤を3~4kg/10aを散布しましょう。

3 肥培管理

コシヒカリの穂肥 ※幼穂長を確認し稲の姿に応じた的確に施用すること。

◎施用基準（分施体系）

「BB有機入松任穂波」

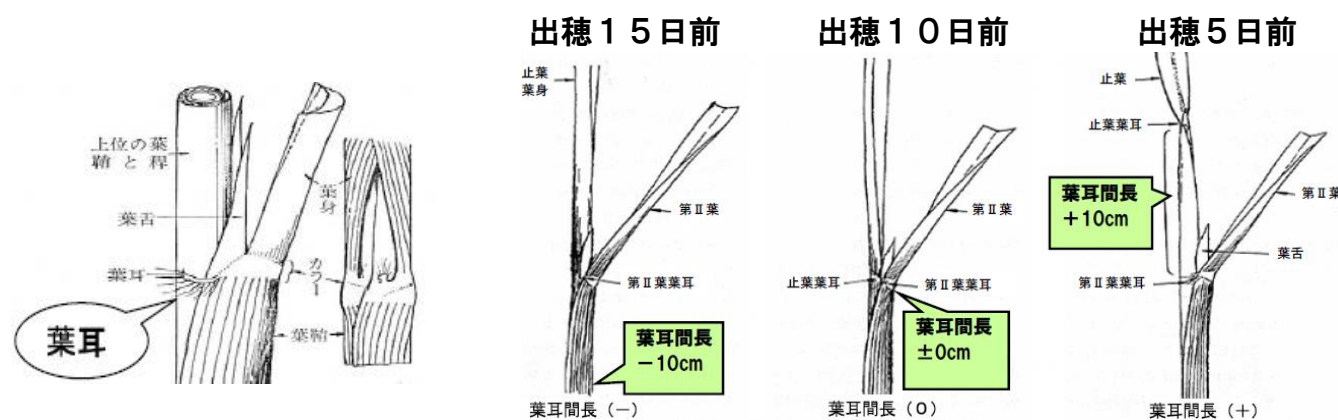
施用時期 (幼穂長)	時期の目安	施用量(kg/10a)	葉色
出穂18日前 (10~15mm)	7月11~13日	30	3.5

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色がやや濃い葉身は直立・・・基準より5日遅らせる。
- ・葉色が濃く葉身の乱れが目立つ・・・基準より（1回目を）5日遅らせ、2割減肥。

📌 **ここにも注意を** 《生育に応じた今後の対応方針》

	生育が早い、生育旺盛な場合	生育が遅い、生育不足な場合
幼穂形成期	草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。	生育が遅れているため、穂肥や基幹防除が早めとならないよう注意する。

◎葉耳間長による出穂前日数の推定方法



4 中干し終了後の水管理 ~ 飽水管理の徹底 ~

○中干し終了後は**間断通水**を実施し、**徐々に飽水管理へ移行**しましょう。

急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないでください。

○出穂前後は花水として、湛水しましょう。ただし溜めっぱなしを避け、水の入れ替えに努める。

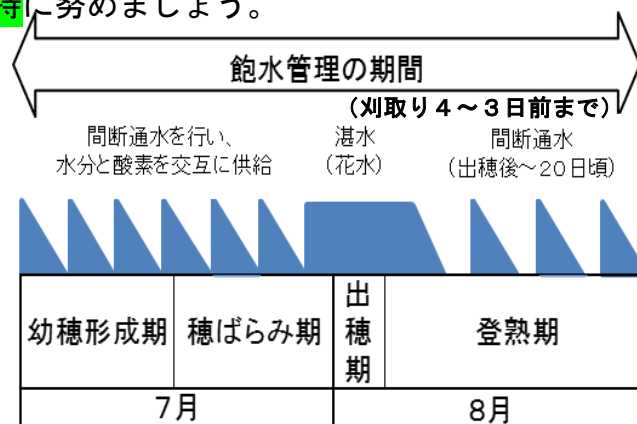
○**飽水管理は登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持**に努めましょう。

📌 **ここにも注意を**

※減数分裂期（前ページ参照）に低温(17℃以下)が予想される場合、深水にし、幼穂を守りましょう。

※登熟期に高温が続く場合は、夜間通水を行い地温を下げるように努めましょう。

※強風やフェーンが予想される場合、あらかじめ十分に入水し、高温障害の発生を防止！



5 倒伏軽減剤

薬剤名	使用量 10a当たり	使用時期	本剤の 使用回数	注意事項
スマレクト粒剤	2~3kg	出穂20~7日前	1回	湛水状態で播きムラのないように均一に散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は強制的に落水しない。
ビビフル粉剤DL	3~4kg	出穂10~5日前	1回	播きムラや重複散布に気をつける。降雨直後や降雨が予想される場合は散布しない。

「ゆめみづほ」上乗せ追肥について

○出穂前の葉色が薄い場合（葉色5未満）は、基肥一発肥料であっても出穂7日前頃に追加穂肥を施用し、高温登熟による白未熟粒発生を防ぎましょう。

「BB優米味R」9~10kg/10aを

7月9~11日(出穂7日前)を目安に施用

- ※基肥に「早生一発くん NEO」を施用した場合は、葉色を見て、上乗せ追肥を実施しましょう！
- ※ただし基肥に「早生一発くんDX28」を施用した場合は、上乗せ追肥は不要です！



この時期の追肥は、増収効果も期待できません！

基肥一発肥料プラス上乗せ追肥でゆめみづほのさらなる増収をねらいましょう！

※昨年までの経過(秋落ち、大豆跡による基肥減肥など)や登熟期間の気象を踏まえて、実施を判断する。

向こう1か月の天候の見通し（北陸地方）

（6月24日~7月23日）

（参考）新潟地方気象台の情報

平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
平年より高い見込み	平年並みの見込み	平年並みの見込み

平年と同様に曇りや雨の日が多い見通しです。

【お知らせ】 農機センター休業日

7/1~8/6の各土日祝は農機センターを休業とさせていただきます。

※平日は通常どおりの営業です。